

こがねい

2005.7

第12号

放射能測定室だより

発行：川金井市放射能測定器運営連絡協議会
連絡先：川金井市 緑町 5-19-14-608
(事務局) Tel/Fax 042-385-6650 (江藤)



尊き不戦の誓いよ 永遠に

【2004年度 放射能測定結果一覧表】

(2004年4月～2005年3月)

	測定品目	件数	原産国	測定結果(単位:ベクレル/kg)
乳製品	粉ミルク他	7		検出されませんでした。
海産物	昆布 貝類他	9		〃
穀類	小麦粉 スパゲッティ他	5		〃
きのこ	ポルチーニ 2003年産	1	イタリア	37.40
	ポルチーニ 2004年産	1	イタリア	69.34
	ポルチーニ	1	イタリア	検出されませんでした。
	乾燥キノコ	2		〃
	干しシイタケ	2	日本	〃
	マイタケ	1	日本	〃
お茶	ウーロン茶 番茶 緑茶	3		〃
乾燥果実	アンズ プルーン ブルーベリー	3		
菓子	グミ チョコレート	2		〃
その他	86ローリエ	1	トルコ	361.53
	カップスープ	1	日本	検出されませんでした。
	チーズ	1	フランス	〃
	ワイン	1	イタリア	〃
	はちみつ	1	ニュージーランド	〃
合計		42		

* 以上のほか保育園、学校給食材29件を測定し、いずれからも放射能は検出されませんでした。

* 05年1月末より測定器不具合のため、一般検体による測定は休止して、テスト測定のみとしたため測定検体数が少なくなりました。

☆セシウムはチェルノブイリ事故によって大量に放出された放射能です。過去の核実験により地表に蓄積もされています。分解されるのに時間がかかるので(半分の量になるのに約30年)いったん環境に出てしまうと長く残ります。

☆ヨウ化ナトリウム検出器にて200cc6時間測定しています。

「測定実施の見直し」って?!!

「平成16年度 第2回 定期監査報告書」の監査結果の「検討要望事項」のひとつとして、「放射能測定実施の見直しについて」という文章があることがわかりました。これは監査委員(3人の合議制)が、3月24日に市長と議長に提出したものです。

(3) 放射能測定実施の見直しについて (経済課)

平成2年度に432万6,000円で購入した放射能測定装置を毎年20万円以上かけて保守点検を実施してきている。平成16年度当初予算でも、放射能測定器保守点検委託料を27万6,000円計上しており、この間300万円以上を保守点検費用にかけている。

週1回市民団体が、放射能測定装置が置いてある上之原会館で食品関係の放射能測定を実施していて、平成15年度は測定件数76件、測定品目12種類について実施したということであるが、参加メンバーは固定されており、その結果について、これまでに異常が認められたことはないということである。

実施当初はそれなりの意義があつて始められたと思われるが、実績から見ても費用対効果は少ないと思われる。

また、事業実施から14年以上が経過し、装置も老朽化してきており、全国の市町村で放射能測定装置を自前で持っている市は他に数市という状況からしても、これを機会に放射能測定実施の見直しを検討されたい。

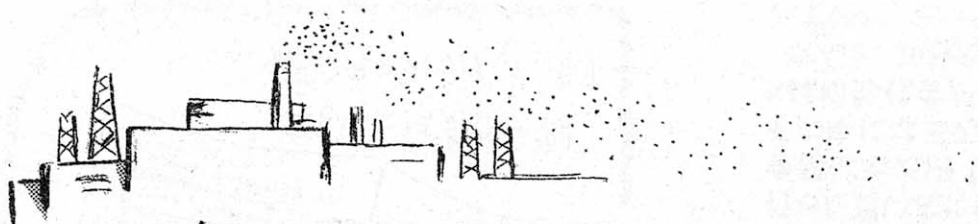
最近、トラブルも多くなり、測定器の寿命が近づいていることは私たちも承知していて、その後についての話し合いもしていました。そんなところに現れた「費用対効果が少ないから見直しを」というこの監査委員の指摘には、この間の小金井市の測定事業の経過や、食品の放射能汚染をめぐる現状への認識があまりにも不十分なことが残念です。

これからどうなるの?

測定事業担当の経済課によると、今年度については重大なトラブルさえなければ従来通りに継続。来年度以降に向けては、まず、夏に開かれる「消費生活審議会」に監査結果を報告し、最終的には来年度予算案が決定する2月を目途に検討するそうです。また、検討の過程では、測定に当たっている私たち協議会との話し合いも十分に持ちますとのこと。

財政難の小金井市が、数百万円の測定機をポンと買えるとは思っていません。でも、どんな結論になるにしろ、十分な現状認識を私たちと共有して方向性を出してほしいという思いです。

そのようなわけで、次ページの申入書を提出しました。



知っていますか？「六ヶ所村」のこと。

青 森県六ヶ所村の名前をお聞きになったことがありますか？

この村は日本中の原子力発電所が使い終わった核燃料のゴミが集まってくることで有名です。どうして集めるかといえば、そのゴミ(使用済核燃料)からプルトニウムを取り出してもう一回原発の燃料にするためです。

そしてこの春、その再処理工場が実質的に操業を開始しました。始まった日の夜、排気筒からクリプトン85という放射性物質が出るのが確認されたそうです。再処理工場から一日に排出される放射性物質の量は、ひとつの原発の一年分です。海にもトリチウムやヨウ素129やプルトニウムを放出しつつ動き続けます。

すでに稼動しているフランスやイギリスの再処理工場のまわりでは小児白血病の発生率が通常より高いという報告があります。

この事態に対して、著名人たちから緊急アピールが出されています。というのも、この再処理工場は単に放射能による環境汚染のみならず、核兵器の原料になることが IAEA(国際原子力機関)から指摘されているからです。

「六ヶ所再処理工場の稼動が他国の再処理正当化の理由として利用され、結果として核拡散を促すことがつよく懸念」されています。

また、ひとたび「大地震に襲われたら、結果としての放射能災害は通常の原発の比ではないことになる可能性が」あります。(緊急アピールより)

緊 急アピールには石牟礼道子さん、鎌田慧さん、黒田洋一郎さん、澤地久枝さん、柳澤桂子さんら27名の方々が参加し、「青森県民、岩手県民だけの問題ではない」と国民全体で真摯に考えるように求めています。

素直に考えれば誰だってこんな工場がすぐそばで操業することには賛成しないでしょう。

なぜ六ヶ所村にこんな施設が出来る事になったのでしょうか？

そのなぜに答えてくれるのが映画「六ヶ所村ラプソディー」です。



私たちの思いをまとめた申入書です！

2005年6月27日

小金井市長 稲葉孝彦 様
小金井市消費生活審議会委員の皆様

小金井市放射能測定器運営連絡協議会
会長 勝沼由美子

食品の放射能測定についての申入書

小金井市民の消費生活の安定と向上に向けてのみなさまのご尽力に感謝いたします。

3月24日付けの「定期監査結果の報告」の「検討要望事項」の中で、「放射能測定実施の見直しについて」の記載があることを知りました。市長としては監査の指摘を受けて事業の検討を行うことになり、その際、消費生活審議会のみなさまの専門的立場からのご意見は重要な判断材料になることと思ひ、申し入れさせていただくこととしました。

私たち放射能測定器運営連絡協議会は、1990年の事業開始以来、市との契約と協定書に基づいた食品の放射能測定を行ってきた市民団体です。当時、1300人を超える署名による陳情を市議会が採択したものの、市としては測定機の購入はできても人的配置は困難という中で、市民として測定業務を請け負ひ、以来15年間にわたり全くのボランティアによる活動を続けてきました。

このたびの監査委員からのご指摘については、行財政運営が適切に行われているかをチェックする立場からのものとは思いますが、残念ながら小金井市における「食品の放射能測定事業」の経過や意義、現状などについての充分なご理解に基づくものとは思えません。

審議会委員のみなさまからの適切なお助言と、市長の慎重なご判断の参考としていただきますよう、下記の通り、監査結果の報告に関する私たちの考えをお伝えします。

また、検討の過程では私たちとの協議も十分に持っていただきますようお願いいたします。

記

1. 「実績から見ても費用対効果は少ないと思われる」について

監査に立ち会った経済課によると「実績」とは測定件数が少ないこと(週1回、15年度は76件)ではないかということです。けれども、市民の依頼による検体を測定する定期測定を週1回とし、保育園・学校給食食材の測定を定期測定日以外に行うというのは、市が協定書で指定した測定のあり方です。また、実績報告として上げられている件数の他にも、疑問のある測定結果が出た場合には長時間かけて再測定するなど随時対応していることは測定記録でお分かりいただけます。

2. 「その結果について、これまでに異常が認められたことはない」について

異常な結果が出ないから測定が不要ということにはなりません。行政や市民による測定が輸入商社や食品業界の自己規制を強化させることとなり、汚染食品が流通しないという抑止効果を果たしています。

3. 「実施当初はそれなりの意義があつて始められたと思われる」について

測定事業を始めることとなった「市民の健康を守るため、市として食品の放射能測定ができるようにしてもらうことを求める陳情」の採択は、1986年の旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故による放射能汚染食品の輸入への心配の声を背景としていました。

事故から19年が経過しましたが、チェルノブイリから飛散した放射能セシウム 137 の半減期は30年ですから、汚染された農畜産物はまだまだ存在しています。測定検査体制が流通を防いでいるという側面もあります。

また、国内57基の原子力発電所は老朽化が進み、今年の末には9基が運転30年を超えようとしています。東京電力の相次ぐトラブルも美浜原子力発電所の配管破裂事故も老朽化が原因です。各地の大震災、東海地震の可能性など、新たな放射能汚染事故の発生が心配されて当然な状況です。

さらに、この5月には原子炉等規制法が改正され、今後、廃炉などに伴って大量に発生する放射性廃棄物の一部を、一般の廃棄物と同様に処分や再生利用ができるようになりました。思わぬところで放射能汚染にさらされることになるかもしれません。

4. 「全国の市町村で放射能測定装置を自前で持っている市は他に数市」について

1988年の市議会での陳情採択、測定器の購入は、そもそも他市に追随した取り組みではありません。同様の取り組みを行ってきた藤沢市では、2001年に老朽化による測定器の一部更新をし、食品の安全を市民の手で確かめるための測定を続けています。

5. 「平成2年度に432万6,000円で購入」「装置も老朽化してきており」について

この間、測定器の故障も増え装置の老朽化は明らかです。本来なら、とくに更新されているべきものですが、市財政の窮状からすれば、使える限り使うべきものと考えます。私たちは可能な限り現在の測定器による測定を続けていくことを望んでいます。

しかし、重大な故障等が発生した場合の更新のご検討もお願いします。藤沢市では機器の一部の交換で足りたことなどにより、当初より100万円程安く更新できたようです。

また、更新に時間がかかる場合の市民からの測定希望や学校・保育園の給食食材の測定への対応についてもご検討ください。

以上。

講演会の報告

『地震・津波と原発』

2005. 3. 6.

「地震がよくわかる会」(たんぼぼ舎内)

柳田 真 さんのお話より

今回は「たんぼぼ舎」における研究会のひとつ、「地震がよくわかる会」のメンバーである柳田真さんに講師としておいていただきました。「たんぼぼ舎」では、1995年の阪神淡路大震災を契機として越生忠さんほかを中心に「地震・環境・原発研究会」が結成され、100回余の研究会並びに3回の全国集会が開かれたそうですが、2002年よりこれを前身とする「地震がよくわかる会」が活動を引き継ぎ、現在毎月1回、地震と原発についての勉強会をもっておられます。昨年末のスマトラ沖地震による大津波は、かつてない規模の被害をもたらし、全世界に大きな衝撃を与えました。その少し前に起きた新潟県中越地震においても、たくさんの方が被災され、「今の日本列島は、どこで大地震が起きてもおかしくない。」という警告が、決して誇張ではないことを思い知らされました。地震と聞けば、「原発は大丈夫？」と心配になる私達ですが、今回のスマトラ沖地震では、地震の際には津波による原発災害の危険性をも考えるべきであるという教訓を得ました。

2004年10月の新潟中越地震では？

新潟での地震とあって、柏崎刈羽原発は大丈夫だろうか？と、気になった人が多いはずですが、柏崎付近の震度はなかなか発表されなかった、ということです。震源地と柏崎刈羽原発は30キロメートルくらいしか離れておらず、地元新潟の方々はかなり不安だったようです。余震のゆれで、7号機が停止(タービンの軸がずれて自動停止)した、との報道がありましたが、強い余震が続く中でも、自発的な停止は考えられなかったのでしょうか。

2004年12月のスマトラ沖地震による津波の際には？

インド洋に面する13の国で23万人以上の死者を出したこの地震は、マグニチュード9を越す大きな規模のものであり、その際の地震波は地球を5回以上も周回するほどの巨大な地震でした。これは、阪神淡路大震災の1400倍の大きさだということです。インド南部カルパカムにある原子力発電所では、この大津波を受け、原子炉が緊急停止した、という話ですが、詳細は発表されなかったようで、これについての報道は日本でもあまりありませんでした。周辺住民は津波の恐怖に加えて放射能漏れに対する不安にもさらされました。近い将来起きると言われている東海地震、東南海地震、南海地震は、この地震と同じプレート境界型の地震であり、予想される震源域はスマトラ沖地震の際のものよりずっと陸に近い為、早いところでは10分以内に津波が到達すると想定されています。警報システムを強化する、堤防のあり方を見直す等、津波対策が現在各地で進められていますが、原発を津波が襲った場合はどうなるのでしょうか？日本では、53基の原発が海岸線に建てられており、中でも、浜松原発は東海地震の震源域とされる場所、プレート境界の真上に建設されています。

地震・大津波が襲ったら浜岡原発は？

浜岡原発では現在5基の原発が存在しています（5号基は今年に入ってから運転を開始）。津波対策は取っている、とされていますが、津波の波高や最高到達点をあらかじめ知ることは不可能ですし、今回のスマトラ沖地震に見られるように、津波はコンクリートの建物をも根こそぎ破壊するほどの力を持ちます。原発の前面には高さ10メートル長さ80メートルの砂丘があるから大丈夫、とする中部電力の説明も、液状化の可能性を考えれば安心できるものではありません。今回中部電力は5基の原発全てに耐震補強工事を実施すると発表しました。しかし、津波によって取水口が塞がったり、電気系統が破壊される等、想定外の事態が起こることはないのでしょうか？仮に原発が停止していても、燃料がある限り冷却を続けなければメルトダウンの危険は回避出来ません。冷却用の水が引き込めなくなれば、「メルトダウンするよりはまし」として、放射能を含んだ蒸気の大気放出により、原子炉を冷却せざるを得ず、更に大事故になれば、わずか半日で放射能は日本列島を覆うこととなります。ご存知のように現在各界の重鎮も呼びかけ人となって、「原発震災を防ぐ全国署名」運動が展開されています。浜岡原発の運転停止を求める声は全国に広がっています。

▶ 測定依頼をお寄せください!!

申し込み方法等は ですよ。よろしく

お願いします!

「はあ、実際に測定にかかりたいか、
手に協賛会に参加したいか、いづれも募集して
いますのでご連絡ください。大歓迎です。」

はかってほしい時は

① 市役所経済課に問い合わせの
でんわをしてください。
042-387-9831

(経済課)



測定日の指定が
あります。

CRAB
に記入して
ください

③ 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を
上ノ原会館 に持参し、協賛会測定者に
わたします。(検体は細かくしてください)

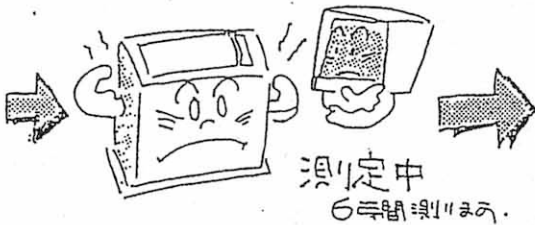


受付票に
必要事項を記入。

⑤ 夕方、検体を引き取りに来てください。
測定結果を記入した測定票を返却して
ください



※ 370g以上
以上が検出された場合は別途、
検閲処理を行ないますので、ご持参
いただいた検体は返却できません



★ 200ccの容量が必要です。
(スリムタイプは150gくらいなど、
生しいけは210gくらいなど)
※ 検体は細かくしてください。



★ 食品に限ります。

★ 無料です。

